

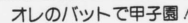
昭和56年12月18日
編纂人兼発行所
秋田県能代市高城2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所(株)大勝堂印刷

風花を
残して吹雪晴れ上がり
落葉松が見する億の冬の芽
颯田島 一二
吹雪の晴れ上がった朝、風が運ん
で空市に舞つてゐる。高原は一
雪で空は青く澄みわたる。落葉松は
しづむ。

この旧式武野郎専用のも用練
場が完成した。これは、もと雨
ビツチンク場だったところを、
八十八丁の昔ながら改造し
てもある。この設備は、県内
も五の指に入らうである。

この武野郎協会は、
林野が赴任して、

ななへは、ある。スーパ
台座、温湯ネット、ハッ
ソングのネットも張ってある。
現在設備は、干干、と、そ
で、入りたい。そで、
ツリー、四野、野手、野手



二年生希望者

にわけて、交代ながら練習をしている。

墨田運動場について小林監督は「今まで聞かされた冬に練習が、土のセーフパスを打つというところで、ずいぶんナラになる。Ｔ、Ｂ、ディンギもおもしろい。軽い守備練習、バント練習もできる。照明も完備しているので、夜間練習もできる。幸々はいよいよまでですね。」と待たれた。

また、二国主将は、「この練習場のほかには、昨年までの体部部と二楯の練習場とすべし便利になった。土のセーフ練習するのにはいい。矢井がちょっと底力がないので、もう、矢井がつかないで、来年は中甲にしたい。」と語つてゐた。

来年の硬野球部の活躍が、期待される。

三點

●興立五城目
 高校のある教
 諭が、就職希
 望の三年生を
 もつて母校に
 多数の金品を

受け取り、贈収賄の罪で逮捕され
 た。この事件は同校関係者及び
 全県民に大きなシ
 ョックを与え
 た。とりわけこの事件を知った短
 大生徒の中には、教師に対する

十割に集票した信託投票の結果、会長、副会長及び常任委員となつた。補選委員に當選したとなつた。信託投票間もなく中間補充がはさまつた。「十日以内に補充完畢」とうな選挙規則第八條より、とにかかれば、一、二名、剰當のポストがあつた。今後、年間空室きき留まつて、依然として続いている生徒に対する無関心化をはげしく、山積する諸問題にのちむに対処するが注目される。

投票の集票は次の通りです。

生徒会長
當選 荏苒洋士（二〇） 五五五
次席 工藤 勉（二〇） 二五三〇
無効 一九九

同副会長
當選 菊地 拓 (一A) 五十六
次点 小川内 寿 (二G)
無効 一四五一
二〇二

(解説)
今年の選挙も昨年、一昨年と変わらぬ無関心化の一向に陥ちますが、「自分達の生徒」に「自分の氣風」をこもこ見当たらなかった事実に、数百年は選挙運動と空を消してしまつた。以前は投票者の関心を集めるために、ポスターを掲示するといったことが實際に存在した。それに立派に紹介にしても、ほとんどの候補者から「約も投票も聞かれず、クラスと名附けをするだけ」という低調さが続いている。従て有権者は、候補者(公約や人柄)を聞かないために、「適生者」というよりも「級友」、「知人」に投票がちなというのが背景で、中でありどいかにその目録に、中であり選挙運動ばかり通つたといふまづ、クラス毎にも有効投票がわづか二票と、クラスの半分に満たないところがある。だからこそ、投票者が自ら参加して、選挙の空氣を上げさせるべきである。

もし候補者にも氣が欠けたとすれば、必然的に有権者もある氣が損なれて、やはり選挙目録に投票するだけといふ底意が、現存する投票票に透けて見える。いさゝか、うか、うか、――

来
次
年
に
本
に
一
票
を
投
入
す
る
一
人
。

[illegible]

立派が百七と擧げている。就黨志望者は三十七人、うち二十八人が公務員關係と庄園的な人々を占めてゐる。國鉄・黒龍黨に於ては採用が安まつゐる。全体的に異内志望者が三十二人といへども地主階級がみられる。

「フオート&

Rと授業時間だけが、担任との接しうる時間である。中には、担任の授業のないクラスがあったり、週一回のRの時間を何もするところがないので自習に変わったという例もある。こんなうちではまずまず教師と生徒との間が離れがた

それ反対に、二人きりだして、なだだていたわつてあげる態度を、やきやきと不耐している。はるかなうが、真のやさしさは、悪くとも・まちがったことを、はっきり指摘し、相手に対して、正直になることではないだろうか。お互いにいたづら合つてもいいが、あんなに、あくまも団体の中の一人として、自分を捨ててはいら。お互に練習あひがら。ホンホの。やささ。を御解し。高校生に男交際をせよはじいものだ。

志望先	人 数		計
	男	女	
国 公 立 大	123	32	155
私 立 大	104	18	122
短 大	5	6	11
専 門 大	6	2	8
就 職	37	0	37

国公立大專願	90
私立大專願	117
国公立・私立併願	81

人 文	13
社 会	43
理 学	5
工 学	38
農 学	3
医歯学	7
教 育	57
芸 術	1
計	167

人 文	13
社 会	43
理 学	5
工 学	38
農 学	3
医歯学	7
教 育	57
芸 術	1
計	167

去る十月十七日、学院大会、第三十一回全国高校総論大会が行われ、本校代表で出場した須藤肇博(三)が、理事選挙準備した。この日、国学院大学主催に、われわれ一校に、その原稿を応募し、その原稿のうち大会前第 1 次審査を通過したものが十一月の全国大会に出場するところがあるものである。ちなみに今年は十三部が通過した。須藤君は、九月十一日に行われた第四回校内弁論大会で、演題「偏見を越えて」で

一日運動會の序で、はははと笑つてゐた。それを獲得したの。

當日須藤先生は、全国大会度目出でた。たゞと、引率の佐生な金の幸の一人だとなつてかゝつて聞直り、あつたところを、週も本人がつくする程かゝつてゐた。それで、井筒の答は、位だつたものの、時間イバで減点されたのに、位なつた。

須藤先生の弁論は、陣書書の人の社會問題であり、陣書といへば、自分から閉の田舎でしては、金の不合理的だといふと、人間が人間を、すくも陣書は存在しないといふこと、五徳満足人間は、陣書の人の精神の痛を感とる努力をすべきだといふことを強調して、

明日イブニングニュース社長の「フーズ&エッツ・コンクリ」の「テーマ」生活の入賞員が十月十日日に発表された。本校は、佐藤達郎（二年）、防智孝（三年）の両君が入賞をした。

また、好成绩の理由は、何と云へてもいふに、何と云へてもいふに、陣書が井筒の所屬といふことが、今、勝を識せず、純粋調の態度で大に臨んでゐた。

須藤先生の活躍によつて井筒は無敵で、代名詞の名もつて、固に言ふ。今後は、機に井筒を中として、いさゝか盛んしてゐることが出来る。

「人間の能力、何をも超えて、無限に伸びるものである、と自分なりの確信をもち、その確信を行動にうつす。確信が行動にうつると、行動が確信を強める。この確信と行動の循環が、人生の成功の鍵である。この確信と行動の循環が、人生の成功の鍵である。この確信と行動の循環が、人生の成功の鍵である。」